

「ライフテリア」春原木材がつくる高齢化社会対応住宅

高齢化社会が進み、人生100年の時代。

身体の衰えにより、誰もがやがて生活に変化が生じます。

健康な今だからこそ、

時間を経ても暮らしやすさが備わった家づくりを検討するべきかもしれません。

春原木材はお客様の年齢に関わらず、高齢化を見据えた生涯設計をします。

廊下・階段の幅、手すりの位置、段差のないバリアフリーなど、

「転ばぬ先の杖」に配慮したライフテリア(高齢化社会対応住宅)は、

これからの家づくりに欠かせない条件の一つです。



現在も将来も考えた住まい設計

何年経っても、誰もが暮らしやすいと感じられる家づくりを、
さまざまな設計の工夫で実現します。

床の段差を、できる限りなくす

家庭内で起きる事故のほとんどの要因は段差によるものです。高齢になるほど、小さな段差でつまずきやすくなります。基本的なアイテムです。



身体を支える手すりを設ける

生活する上での移動・動作を補助するのに手すりがあると安心。玄関・階段・浴室・トイレに設置します。「転ばぬ先の杖」と言えるでしょう。



出入り口の幅に、ゆとりをもたせる

出入り口を広く取れば、腕や体がぶつからなくなり、ケガを防ぎます。将来の車イスへの対応や介護への備えにも有効です。



生活動線を考慮したゾーニングにする

高齢者になると、日常の生活動線が短いほど快適に暮らすことができます。就寝時を考えると寝室とトイレの距離を近づける配慮が必要です。



室内を明るく、見やすくする

加齢とともに、視力は衰えてきます。上がり框に照明を設置したり、見やすいように色を変えて、段差を認識しやすくする工夫をしています。



ユニバーサルデザインの器具を採用する

ドアノブやスイッチ・照明・水栓などは、わかりやすく操作が楽なものを選びます。イスに座って使える洗面台は、足腰の負担を軽減してくれます。



温度差の少ない、健康的な家にする

冬のヒートショック、夏の熱帯夜は、高齢者には身体へのダメージが大きいです。呼吸する断熱材や自然素材で、澄んだ空気と温湿度のバリアフリーを実現。



永く快適さが続く家づくりを追求します

年齢や性別に関係なく、誰もが「その時」を快適に暮らす家づくり。将来の高齢化や家族構成に備え、永く快適に暮らすことができる春原木材の家づくりは、バリアフリーの工夫を取り入れたライフテリア(高齢化社会対応住宅)で提案します。

未来へ伝える木のぬくもり
株式会社 **春原木材**
TEL.026-278-4111
ホームページ <https://sunohara-kinoie.jp>
〒381-1222 長野市松代町豊栄6414-5



安心して暮らし続けられる呼吸する木の家

●耐震等級3×耐久性＝ 安心が持続する家

春原木材ではすべての建物を耐震等級3で施工しています。耐震等級3は消防署・警察署などの防災拠点となる建物に相当します。

そのため、ご予算やご要望に関係なく、基本構造に関わるサイズや材質を下げることはいたしません。

古来より使われているヒノキ・アカマツなどの耐久性の高い樹種を適材適所に用いています。

地震に強く、耐久性がある「本物の木の家」に安心してお住いいただき、未永く見守りたいという、春原木材の家づくりに対するこだわりなのです。

●耐久性を高めるには「呼吸する家」

耐震性が高くても呼吸しない家は腐ります。

長持ちする家づくりに最も大切なことは見えない部分が呼吸すること。

高气密化が進むにつれ、呼吸できない新建材の多用により、結露やカビの発生しやすい環境となり、建物寿命が短くなってしまいました。

築100年の木造住宅が、現存しているのはなぜでしょうか？ それは自然素材を適確に使い、建物を呼吸させる技術があったからです。

熊本地震で倒壊した建物の原因について、建築基準法を満たした建物でも木材が呼吸できず、湿気や結露でカビや腐食が発生して、劣化による強度の低下が要因のひとつでした。

家の見えなくなる部分（野地板・外壁・室内壁・壁下地・断熱材・床下）が呼吸できることが、何よりも重要であると言えます。

耐震性だけでなく、長期にわたる耐久性を追求し、春原木材は呼吸する家づくりにこだわり続けます。

●お客様のための 厳しい設計基準

春原木材では厳格な社内設計基準を設け、建築基準法で求められる耐力壁（地震の横揺れによる被害を防ぐために有効な壁）に対して、耐震上、横揺れに有効な「すじかい」を125～130%増量しております。

家のバランスの数値として柱直下率60%以上、耐力壁直下率も60%以上、偏心率は20%以下という独自の基準ですべての建物を設計しております。

●「呼吸する断熱材」の秘密

セルロースファイバーが持つ調湿性に加え、心地よさの秘密は「容積比熱」にあります。

「夏、家に帰って来た時にムツとしていない」「2階の暑さがあきらかに他の断熱材と違う」「空気がさわやか」など、アンケート結果でも体感による評価がとても高いのです。

セルロースファイバーは、外気温が室内の温度に影響を及ぼしにくく、同程度の熱伝導率を持つ他の断熱材の住宅にはない快適性が体感できます。

セルロースファイバーは、容積比熱がグラスウール16Kの約7.7倍も優れているため、その蓄熱性の高さから室内まで熱が入りにくくなるのです。

夏期の2階天井面では、同じ断熱性能でもグラスウールに比べてセルロースファイバーの方が2℃程度低く、温度上昇が緩やかです。

セルロースファイバーは施工密度が高く、断熱材使用量が多いため、施工に時間がかかりますが、容積比熱という考え方では逆に他の断熱材と比較して、夏の快適性には優位に働くことがあきらかになっています。



■通し柱
通し柱は厳選した良質の国産材であるヒノキの芯持材の5寸角を用いております。ヒノキの特長として、伐採直後から木質繊維の硬化が始まり、その作用は約200～300年間続き、強度や剛性が約30%増加します。



■丸太梁
家の骨格として主要な部分に用いられる丸太梁は、角材に比べ、断面係数が高く、たわみづらいため、長期間にわたって地震や風雪に対して強度を発揮します。気候風土になじむ地元産のアカ松を使用しています。



■すじかい
春原木材では厳格な社内設計基準を設け、建築基準法で求められる耐力壁（地震の横揺れによる被害を防ぐために有効な壁）に対して、耐震上、横揺れに有効な「すじかい」を125～130%増量しております。



■荒床（畳の下地）
畳の下地が合板だと、畳がムれて内部のワラが呼吸できず、カビ・ダニが発生して腐食の原因となります。ヒノキ無垢の荒床は、通気性があり、耐湿性と抗菌作用が高く、畳のムレを未然に防ぎます。



■基礎
新潟中越地震の教訓から、基礎のコーナーに力が集中した場合の歪みをおさえるため、隅部を補強したコーナーハンチ（三角補強）を設けています。布基礎の幅は150mmで基本的な強度を高めています。



■土台
土台には耐水・耐久性に優れ、防腐・防虫性の効果があるヒノキ4寸角の芯持材が標準仕様です。ヒノキ特有のヒノキチオール芳香成分は、天然の殺菌効果があり、シロアリやカビの発生を抑えてくれます。



100年後の子どもたちへ伝えたい
春原木材の想いが詰まった本
「未来へ伝える木のぬくもり」を
つくりました

春原木材の哲学
家づくりの思想が
ここに 있습니다

◆ご来場のお客様に進呈いたします

●新型コロナウイルスの対策として、会場内で密接しないために入室制限のお願いを
する場合があります。

未来へ伝える木のぬくもり

株式会社 春原木材

TEL.026-278-4111

ホームページ <https://sunohara-kinoie.jp>

〒381-1222 長野市松代町豊栄6414-5